わが社の交通安全

城北紙器梱包株式会社

社員の持ち寄りで新鮮な交通情報

社では梱包資材を委託製造・販売して12台の社有車が営業や技術提案などに動く。これに、最近はコロナ禍による車通勤も加わって、社員が持ち寄る交通情報の役割が広がってきた。

取材・執筆　吉岡耀子（交通ジャーナリスト）

▲北区の社屋ビル

環境にいい商品を、と期待される

創業は明治34年、神田で木箱製造を中心に梱包業の基礎を作り、その後1960年に北区に移転して会社設立、1980年代の高度成長期から全国の製造会社や販売会社と委託契約を結んで梱包資材の商社として発展した。現在は全国で協力工場80社、100工場とのネットワークを持つ。

中心業務は段ボール販売だが、最近はクライアントから「環境にいいものを」と相談されて、営業本部が主導し社内の技術部などが準備して新商品デザインを提案する。2017年には日本パッケージデザイン大賞（銀賞）を受賞した。

社用車は12台あり、従業員25名のうち運転に携わるのは22名で使用車はほぼ決まっている。各自、責任を持ってきれいに洗車するなど基本的な注意を守り、不具合があれば安全運転管理担当・松吉雅廣さんに報告する。松吉さんは定期的に全車両を点検とメンテナンスに出す。

コロナで車通勤。情報が広く集まる

車両は営業や打ち合わせで使うが、入社間もない新人には半年ほど運転は控えさせる。先輩は新人を同乗させて運転と営業などのノウハウを車内で教え伝える。「一時停止で気をつけろ」などその場その場で伝えると印象が強いので、社では安全運転に効果的だと考えている。

ベテラン社員となると遠方の福島や長野県・佐久などまで車で訪れる事もおおい。長距離運転の場合は時間にゆとりを持って早く出るように注意している。なお、車に実物を積むことはなくせいぜい見本の段ボールほどのもので、積荷の負担や問題は発生しない。

社では昨年春からのコロナ禍により、全社的に車通勤をしている。テレワークで出社人数を制限し、出社時は同じ方角の社員同士で乗り合わせたり、車を持たない社員を迎えに行くなど工夫している。この車出勤により各方面からほぼリアルタイムの交通情報がもたらされるようになった。社員同士の雑談で「本郷通りは9時までダメだよ、左側がバス専用車線になるから」などと情報交換したり、危険箇所があれば会社に伝えて朝礼で全員に知らせるなど、身近な交通情報が活かせるようになった。

今までは天気の悪い日などは朝礼で運転注意を喚起してきたが、最近はオンラインに切り替わり、注意が緩まないように気を引き締めている。また渋滞情報があるときは、余裕をもって早く出発するように上司から指示を出してもらう。

▲展示会でも新デザインを提案

▲駐車場

地域との連携で進める交通安全活動

交通安全活動では地域との連携が欠かせない。社では年に2回、春と秋の全国交通安全運動に王子警察署の交通整理活動に参加してきた。この1、2年はコロナ禍で見合わせとなったが、再開されればまた参加したいと考えている。

また王子警察署の安全運転管理者講習や懇親会などにも毎回参加して、交通安全に関する新しい情報を得て朝礼や日報で社内に周知している。

▲交通安全活動に参加

松吉さんが安全運転管理者を担当して7年になる。この間、事故ゼロを目指し、交通安全活動や交通安全情報の還元をしてきた。それでも苦しい思い出もある。夜間に社員が交差点で右直事故に遭い、ドライブレコーダーが作動しなかったために解決まで難航した。

これを機に車両の安全管理をさらに厳密に行い、社員には交差点や信号での右直事故の危険について念入りに説明した。

うれしかったことは、「朝礼でも司会者から事故注意の話が出るようになったことです」とのこと。安全意識が社員の間に広まることが、安管業務の何よりの成果であり、喜びであることが伝わってきた。

▲安全運転管理担当・松吉雅廣氏と、警視庁と東京都交通安全協会からの感謝状